

# ムダな公共事業やめ、暮らしや福祉、震災復興を

## コンクリートから人へ

今こそ



「コンクリートから人へ」と言った民主党政権。しかし、中止すると聞いた群馬県の八ッ場ダム、5000億円かけてわずか20数分短縮する長崎新幹線など、「人からコンクリート」になった民主党政権に大きな批判が吹き出しています。

### 各地ですすむ脱ダム運動

熊本県の川辺川ダムは2008年、熊本県知事が白紙撤回を表明し、翌年には国も建設中止を表明。国が1966年に計画してから40年後に中止となりました。

熊本県宮荒瀬ダム(八代市)は、「清流をとりもどそう」という住民運動のもと、今年9月からダムの撤去工事が始ま

りました。

兵庫県の安室ダム、島根県の志津見ダム、三重県の川上ダムなどは、ダムはつくったものの、水需要の減少で一滴も使わなかったり、ダム事業を凍結したり、撤退したりと使ったのは多額の税金だけでした。

### 自然を壊さずにまだまだ水源を増やすことができる

石木ダムをつくらずに、水源を確保する方法は他にもあります。その一つが、佐々川の水利権の転用。水利権をもちながら、ほとんど佐々川からの水を使っていないところがあり、それを市民の水として生かすことができます。お金はかか

りません。

二つが農業用ため池の管理。佐世保市内の農業用ため池は全部で1255カ所あります。最近このため池からの水漏れ事故が続き、改善・対策が急がれています。ため池の保全と管理の支援は、農業用水にも災害

防止にも役立つまさに一石二鳥です。

問題は、その気になればまだまだ水源を確保できるのに、長崎県と佐世保市と市水道局が石木ダムに固執していることです。

### 石木ダム建設費用535億円を市民生活や震災復興に

石木ダム建設の総事業費は285億円。佐世保市が100億円、長崎県が185億円の負担です。しかしダム建設には取水施設、導水施設、浄水や配水施設など関連事業費が250億円

で、佐世保市の持ち出しは合計で350億円に。この莫大な費用を佐世保市はどうやって捻出するのでしょうか。結局は水道料金の値上げにはね返り、すでに2010年4月から値上げが

始まりました。

つくる必要のない石木ダム建設の予算は、市民の暮らしや福祉に生かし、震災復興のために生かすべきではないでしょうか。



石川 悟 党北部地区委員長

全くムダな石木ダム建設中止を求めて、日本共産党は国会でも、県議会でも市議会でも頑張ります。

みなさんのご意見をお寄せください。Tel 0956-25-6811 FAX 0956-25-8740